

「東亜日報を読む会」

一統・極私的市民運動の記録<その4>一

こんな名前の会があった。一九七五年、東亜日報に韓国民主化闘争の過程で、韓国政府から弾圧が加えられた。東亜日報は、弾圧にくじけずがんばった。その東亜日報を応援するために「読む会」を作った。

「むくげ通信」二九号（一九七五年三月）では、「東亜日報特集号」をつくった。内容は以下のとおり。当時のむくげ通信はガリ版ではないが、手書き。私もけっこうきれいな字を書いている？（今回、この特集記事をネット上の「むくげ通信総目次」にはった。）

- ・国民投票をめぐる『東亜日報』の報道 堀内稔
- ・東亜激励広告一ヶ月の分析 飛田雄一
- ・広告解約の中の東亜放送 鹿嶋節子
- ・拘束者の「釈放」 北原道子

最初の記事は、次の文章から始まる。

「今、東亜日報は一線記者の解雇問題で大きく揺れており、多くの人人々が事態を憂慮している。記者のストライキ闘争によって、金芝河再逮捕のニュースすら報道されなかったという」

学生センターでは、広告弾圧事件の前から東亜日報を購読していた。ネットの時代ではない。現物が、東京支社から送られてきた。ロビーの新聞棚においていた。

余談だが、当時、まだセンターは敵性団体？神戸大学の韓国人留学生に「センターに出入りしないよう」と領事館に言われた、と、私に教えてくれた留学生がいた。

センターロビーで熱心に東亜日報を読む留学生がいた。声をかけた。と、その留学生は、走って逃げていった。いま、センターは敵性団体ではない。

弾圧を受けている東亜日報を支援しようということで始まった「読む会」。会場は、大阪市立労働会館。むくげの会のメンバーのほか、大阪外大の永嶋暉臣慎さん、京都大学の水野直樹さんが中

心メンバーだった。一九七五年四月から一〇月まで、ほぼ毎週開催したというのがすごい。その度に主だった記事を翻訳して資料集を作った。

一号（一九七五年二月一五日、この号は案内のみ）から一四号（一九七六年一月三一日）。本格製本の合本を二冊？作った。暑さは、三・五センチ。一冊は、

韓国民主化運動記録保存会？に寄贈した。そこで働いていた友人の金景南さんに頼まれて送った。もう一冊は、どこにあるのか分からない。いまむくげの会には、ファイル綴じのものだけが残っている。

堀内アーカイブには、PDF ファイルが全部ある。今回、六甲アーカイブ（神戸学生青年センターHP 内）にそのすべてを貼った。当初は表紙もなく新聞記事をコピーしただけのものだが、だんだんとそれらしい資料集になっている。

当時の東亜日報、なんと言っても「コバウおじさん」である。人気のマンガで、かわいい。ユーモアセンスも抜群。権力への皮肉が強烈だ。この資料集は、コバウおじさんを見るだけでも価値がある。

※コロナのとき、ごろごろしているのもしゃくなので、『極私的エッセイ—コロナと向き合いながら』（社会評論社、二〇二一年二月）を出しました。ベ平連神戸事件顛末の記、阪神淡路大震災の記録、コリア・コリアンをめぐる市民運動、南京への旅・ツアコンの記、「青丘文庫」実録、「六甲古本市」全？記録、ゴドウィン裁判一初・原告団長の記でした。それにこりす「続編」をはじめました。①市民運動と印刷機たち、②広島で被爆・孫振斗さんの裁判、③市民運動とパソコンたちです。この東亜日報はその4です。

